

**定住と就農を
合わせた取り組み**



緑風会
金田稔久

定住

問 定住・就農支援に特徴づけするため、「農業女子支援事業」に取り組んでみては。就農者へのトレーニング機能強化への取り組みは。

答 就農促進トータルサポート事業の研修終了後に、農業経営を始める若手農業者に対して農地や住居の賃料などの助成制度や経営体育成支援事業などの補助事業も活用しながら支援を行っている。現在、若手女性農業者9名で構成している「あぐり女史の会」のメンバーの声も聞きながら「農業女子」の支援策について研究を進めて



まほらファーム入口付近

いきたい。

農業者の自立に向けたトレーニング機能としては「まほらファーム」にて実施しているが、関係機関と連携しながら機能強化を図り、「就農しやすい環境づくり」に取り組みたい。

**美作大学・
津山高専との
更なる連携を！**



津山誠心会議
野村昌平

教育行政

問 市内には美作大学（短大含む）と津山高専の2つの高等教育機関があるが、現状と市の施策・考え方は。意思疎通は十分されているか。

答 これらの学校には市内外から約2,100名の学生が学んでおり、本市における高等教育の重要な役割を担い、必要不可欠な都市機能として貴重な財産となっている。平成20年に包括連携協定を結び、毎年5月に代表者会議（市長・学長・校長）を開催している。



創立100周年を迎えた美作大学

健康

問 市民の健康づくりへの取り組みは。

答 健康寿命は男女とも伸びたが、健診受診率の向上のため、公民館などでの健診やナイター健診に努める。さらに、ノルディックウォークの普及啓発や慢性腎症の重症化予防教室を実施する。

**つやま和牛、
認知度アップの
取り組みを**



森岡和雄



特許庁へデザインイメージの商標登録を出願中で、今後は認知度アップに取り組み。本年度末には第1号が出荷となるので年内には仕組みを確立したい。

雇用

問 つやま和牛はどのような売り方をするのか。今後の予定や販売計画は。

答 販売方法は、枝肉を扱う組合員によるオークション形式の競売や飲食店の登録を検討し、「指定店制度導入」による市民や観光客への提供を考えている。

問 つやま産業支援センター設置に伴う計画は、5年で雇用創出100人が目標というが、どうか。

答 支援事業に伴う新規創業の雇用創出数でこれにインターンシップの強化などによる雇用創出を加えると5年間で約100人の目標になる。取り組みをしっかりと進め、上回る効果が得られるよう努力したい。